

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	健康増進センター
2 指定管理者	公益財団法人仙台市健康福祉事業団
3 指定期間	令和6年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 24,165人(前年度比 101.8 %) 令和6年度 24,165人 : うち地域展開事業利用者 2,859人 令和5年度 23,744人 : うち地域展開事業利用者 2,238人 令和4年度 18,331人 : うち地域展開事業利用者 1,646人 《事業》 生活習慣病予防や高齢者の介護予防、障害者の健康づくりの3つの事業を中心に、健康リスクを抱えた市民への専門的な健康づくりを展開 ・生活習慣病の予防 ・高齢者の介護予防 ・障害者の健康づくり ・健康度測定の実施と健康づくり支援プランの作成 ・指導者養成 ・出前講座
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 212,815千円 (202,476千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 ・ 使用料収入 5,858千円 (5,459千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・各事業ごとに利用者アンケートを実施し企画・運営の参考にするほか、館内3か所にアンケート回収場所を設置している。 ・職員のあいさつ・対応、施設内の清潔さについて高評価を得られた。要望に対しては、速やかに対応を協議し改善に努め、また、回答内容を館内の情報コーナーに掲示している。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	生活習慣病予防、高齢者の介護予防、障害者の健康づくりを3本柱に、健康リスクを抱えた市民への専門的な健康づくり支援を積極的に行っている。特に高血圧予防啓発の一環として、これまでは体験イベント等のみで実施していた尿ナトリウム比測定を、健康づくり支援プラン事業の食生活コースに導入し、定期的に尿ナトリウム比を測定することでより実践的な健康づくりに繋げる仕組みを構築するなど、健康づくりの指導や研究開発に取り組む他、健康リスクを抱える障害者、高齢者並びにその支援関係者を対象とした研修を実施するなど、障害者の健康増進、高齢者の介護予防を支援するために必要な人材育成にも積極的に取り組んでいる。	30/30
II 施設の運営管理体制	様々な健康リスクのある方が安全に安心して施設利用できるよう、安全確認や誘導、見守りなどの体制を組んで受け入れを行っているほか、危機管理に関するマニュアルとして「救急対応マニュアル」や「医療職用マニュアル」など各マニュアルを整備し組織内で共有するなどの対応を行っている。また、事務室内での掲示による情報セキュリティ対策や職員に対する情報セキュリティチェックを実施しており、施設の運営管理や利用者の安全・安心のための必要な対策がとられており評価できる。	25/25
III 施設・設備の維持管理	開設当時から使用している設備も多く、法定点検で指摘を受けた消防設備の修繕など、必要な措置を適切に行っている。また敷地内を点検し、歩行者の支障となるような段差の解消や、通路床の水滴清掃を細目に行うなど、市民が快適で安全に、安心して利用できる施設として維持管理されている。更に、安全に運動できる室温等の環境管理に十分に留意しつつ、仙台市環境行動計画に則って節電を行っている点やごみの分別、リサイクルなどに積極的に取り組んでいる点も評価できる。	24/24
IV サービスの質の向上	定期的なミーティング等を通じて事業担当職員間の情報共有を常に行い、施設利用者に対して職員が一貫した認識を共有した上でサービスの提供がなされており、健康づくりという継続的な支援を必要とする事業を実施する上で評価できる。 また全利用者の3分の1を超える障害者の健康づくり事業の実施にあたっては、身体障害・知的障害・精神障害といった幅広い利用者の障害特性の理解と信頼関係の構築が必須であるが、上記取り組みを実施している他、利用者アンケート等において職員に対する満足度が高く、この点において特に評価できる。 さらに利用者アンケートの内容を速やかに職員間で共有し、対応策や事業内容への反映を検討しサービス改善に取り組んでいる点も評価できる。	29/28

V 施設固有の基準	指定管理業務協定書、仕様書及び事業計画書等に基づき、適切に各事業並びに使用料の返還事務等を実施している。また円滑な施設運営を図るため、併設施設である障害者総合支援センター、北部発達相談支援センターと定例ミーティングを行うとともに、機械警備や保守点検業務等の施設全体を一括管理する必要がある業務に関しては、各施設と必要な調整を行い適切に管理している。その他、オンラインによる運動教室の実施や脳の健康づくりにつながる体操を紹介する動画を作成し公開するなど、健康増進についての研究事業の結果を実現可能な施策に反映している。	7/7
-----------	--	-----

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市健康福祉事業団）による自己評価》
1. 施設目的に則した事業運営について 全世代で課題となっている身体活動量の増加を目指し、誰でも手軽に取り組めるウォーキングを中心に取り組んだ。ウォーキングマップの活用に加え、新たにフットケアに関するリーフレットを作成し、仙台市と連携した教室やイベントを実施するなどして普及啓発に努めた。 健康リスクを抱える市民を対象とした健康づくり支援プラン事業では、健康度測定に基づいた生活改善プログラムを提供し、治療と並行して支援を進めることで重症化予防に取り組んだ。 市民向けに健康づくりや生活習慣病をテーマとした講演会や高血圧・糖尿病予防を目的とした実践講座を開催するとともに、減塩への取り組みとして、尿ナトリウム比測定を健康度測定の食生活コースへ取り入れ、ナトリウム比についての認知度を高め、予防・改善に努めた。 障害者の健康づくり事業では、身近な地域で健康づくりができる環境づくりを目指し、全区で地域拠点型の運動教室を開催し健康づくりに取り組む場を提供した。また、健康づくり活動に取り組むことが難しい方へは、施設に出向いての支援やオンラインでの支援などに取り組むとともに、施設職員や運動指導者向けの支援・指導マニュアルを作成し、その後も自主的な取り組みができるよう、ニーズにあった支援を行った。 2. 指定管理事業全般 大規模改修工事が開館しながら開始されたことから、仙台市及び工事業者と密に連絡を取り、利用者の安全を最優先とした施設管理を行うとともに、各種事業の取扱いや施設利用の制限等に関して利用者への周知を行った。また、法令に基づく点検で指摘を受けた消防設備や優先度の高い設備等について、改修工事の内容を考慮しながら修繕を行った。 併設する障害者総合支援センターや北部発達相談支援センターと定期的にミーティングを開催した他、入居団体と連絡調整を行いながら施設管理に努めている。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
指定管理者がこれまで蓄積してきた専門的な知識や経験、人材により、施設目的である生活習慣病予防、高齢者の介護予防、障害者の健康づくり支援が着実に実施されている。 生活習慣病予防に関しては、身体活動量の増加を目的として実施しているウォーキング事業において、新たにフットケアに関するリーフレットを作成するなど内容充実のための見直しを行っている点や、高血圧予防啓発の一環として、尿ナトリウム比測定を健康づくり支援プラン事業の食生活コースに導入し、より実践的な健康づくりに繋げる仕組みを構築するなど、健康づくりの指導や研究開発に取り組んでいる点が評価できる。 健康づくり事業全般においては、事業担当職員間で利用者の情報共有を確実にしながらサービスが提供されており、継続的な支援を必要とする健康づくり事業を実施する上で評価できる。 また障害者の健康づくり事業の実施にあたっては、利用者の障害特性の理解と信頼関係の構築が必須であるが、上記取り組みを実施している他、利用者アンケート等において職員に対する満足度が高く、この点において特に評価できる。併せて障害特性による健康リスクに応じた健康づくり支援プログラムを研究・作成し、オンラインで提供することで、障害者の継続的な運動実践や利用者の増加に繋げている点が評価できる。オンライン健康づくり支援プログラムを利用する障害者施設は増加傾向にあり、令和6年度の施設利用者数24,165人のうち障害者は8,909人と全体の約4割を占め、障害者の貴重な運動の場の一つとなっている。 施設の維持管理については、指定管理業務協定書等に基づき適切に実施されており、北部発達相談支援センター、障害者総合相談支援センターなどの併設施設の一括管理も確実に行っている。また令和6年度から令和7年度にかけて実施している施設の大規模改修工事の影響によって、施設利用の制限や各種事業の取扱いの変更が必要となった際にも、仙台市及び工事業者と密に連絡を取りながら対応を検討しているほか、併設施設や関係施設と連携し利用者の安全を最優先とした施設管理を行っている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
令和6年度から令和7年度にかけて実施している施設の大規模改修工事の影響により生じた施設利用の制限や各種事業の取扱いの変更等について、施設ホームページや掲示板等を使用し、利用者に対して適切・丁寧（ふりがなや平易な言葉を使用）に周知を行った。

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局保健衛生部健康政策課